

# あなたの会社の生物多様性とトンボ

トンボはどこまで飛ぶかフォーラムに参加している企業では、フォーラムの活動をどう捉えているのでしょうか？トンボがインタビューしました。



## 麒麟ビール株式会社 横浜工場

事業所敷地面積約 190,000 平方メートル ビオトープ池 約 190 平方メートル  
調査地は敷地内のレストラン「ビアポート」前のビオトープ池と周囲の緑地。  
2017 年に完成した横浜環状北線の高架下にも緑地が増えた。

お話を伺った方 横山文彦さん=Y  
インタビュアー ギンヤンマ=G

### 「生物多様性日本アワード」の反応は？

**G** いつもレストラン「ビアポート」前のビオトープではお世話になっています。2017 年はビオトープの周りに新しい看板や「緑のビオトープ」ができて、チョウもたくさん来ていましたね。

**Y** そうですね、「バタフライガーデン」としてチョウが来てくれる環境を整備しましたし、横羽線高速道路の高架下を緑地化して、緑地を増やしました。チョウは整備したらすぐ 10 種類以上が飛来してくれました。

**G** 生物多様性の保全に社として力を入れているんですね。「生物多様性日本アワード」の受賞も社内に広く知られたのでしょうか？

**Y** はい、知っていただくためにまず、所内の従業員に向けて電子メールで発信している場内報「はま★show」に優秀賞受賞の記事を掲載しました。受賞式で頂いた木製の賞状も、しばらくの間工場長の席に飾っていましたよ。

**G** 麒麟さんは会社全体で C S V (共通価値の創造) に力を入れていますよね。受賞したことでトンボ調査もその中で注目度を集めたのではないかと期待しています。

**Y** はい、企業と地域社会が Win-Win で価値を創出している良い例として、年を追うごとに認知が高まっていると思っています。

### 京浜臨海地区の環境保全のために

**G** よく私たちトンボは環境を見る指標になると言われますね。

**Y** そうですね、私どもとしてもたくさんのトンボに来ていただきたい、そのためにはビオトープの管理もきちんとしなければならないと思っています。もともとあのビオトープは作る段階でも専門家の意見を聞き、仕切りを付けて 3 つの区分けになるようにしてあり、生物同士が棲みやすいようにしています。

緑化率のアップも含め、京浜臨海地区の中でも自然豊かな場所を作り、これからもたくさんのトンボたちに来て欲しいと思っています。

**G** そうですね、仲間に伝えておきます。これからもよろしくお願いします。

### 初めての試みハロウィンパーティ

**G** 2017 年にはフォーラム初の試みで「トンボとり大作戦」の報告会をハロウィンパーティ形式にしたと噂で伺いました。

**Y** そうなんです。田口正男先生のお話やトンボクイズなどを交えて行いました。トンボにすごく詳しい子どもさんもいてびっくりしましたよ。

そんな風に麒麟さんでは一般の人たちとフォーラムの活動がすごく近い距離にありますね。



**Y** はい、毎週日曜日には「自然の恵みを感じるツアー」としてビオトープを巡るツアーも行っていますし、このビオトープ池やバタフライガーデンでは何をしているのかを説明する大きな看板も設置しています。興味を持った方が「トンボとり大作戦」に来てくれているかもしれないですね。



ギンヤンマ 写真提供：石川一

